

七月一日

特設空母五附近遊弋中、巡洋艦四、驅逐艦一六、掃海艇一五、輸送船大一一、小一九、病院船一、飛行艇二九
「アスリート」飛行場 著陸三八、離陸一五

七月二日

「ガラパン」、「タポーチヨ」、「ドンニ」西側陣地モ遂ニ確保シ得ザルニ至ル、本陣地戰ヲ最後トシテ決戰ヲ行ハントセシモ地域陸海全員ノ死所トシテ之ヲ許サザリシヲ以テ止ムヲ得ズ「タナバク」北側ヨリ電信山北方ヲ經テ「タロホホ」北方ニ至ル陣地線ニ轉進シ近ク全軍一致最後ノ決戰ヲ整齊ニ敢行スベク準備ス

七月三日

一、守備隊ハ二日夜間第一線ヲ撤收シ「タナバク」北側地區ヨリ二二一高地北側地區ヲ經テ「ガラベラ」西南高地ニ互ル線ニ陣地ヲ占領中

二、右翼方面ノ敵ノ追尾大ナラズ、重點方面ハ概ネ確實ナルモ中央方面ニ於ケル敵ノ進出ハ豫想外迅速ニシテ夕刻一部ノ敵ハ既ニ二二一高地ニ進出セリ二二一高地東側地區ニハ夕刻前戰車數輛ヲ伴フ一五〇内外ノ敵二〇五高地前面ニ進出セルモ夕刻若干後退セリ、右翼方面ノ狀況不明トナル

三、守備隊ノ陣地占領ハ辛ウシテ可能ノ見込ミナルモ部隊戦力ノ消耗、部隊混淆、連絡ノ困難等アリテ十分ナル戦力發揮ニハ多大ナル困難アリ

七月四日

一、最後ノ抵抗線占領ニ關シ努力スルモ遂ニ利アラズ、午前中ハ辛ウジテ敵ノ前進ヲ阻止セシモ午後ニ至リ敵戦車ハ遂ニ二二一高地兩側地區ヨリ陣地内ニ侵入戦線錯綜シ亂戦ト化ス

二、守備隊ノ戦力ハ猛烈ナル砲撃爆撃ニ逐日消耗シ今ヤ敵戦車ヲ支フル一門ノ火器ナク全員肉弾突撃ヲ準備ス

三、守備隊ハ飽ク迄守地ヲ固守シ或ハ挺進シ敵中ニ突入シ最後迄敢闘ス

通信ノ確保モ時間ノ問題トナレリ

四、近ク最高指揮官ヲ先頭ニ總員突撃ヲ決行セントス

七月五日以降

一、米國獨立記念日ニ祝盃ヲ舉ゲシメザル如ク奮闘セシモ既ニ一挺ノ火器モナク最後ヲ飾ルベク努力ス

二、陸海協同一致攻撃シ本作戦ニ於テ其ノ眞骨頂ヲ發揮ス

大津中隊ニ比スベキ皇軍ノ眞價ヲ發揮セル戦闘續出シアルモ特ニ枚舉シ得ズ

斯クテ守備隊ハ善戦之努メ克ク奮闘努力セルモ遂ニ利アラズ最高指揮官ヲ先頭ニ全員敵中ニ突入シ皇軍ノ眞價ヲ發揮セントス

三、六日「サイパン」島周邊ニ於ケル敵艦船狀況

巡洋艦九、驅逐艦三二、掃海艇一四、輸送船大一五、小二二、飛行艇二六

A四―五依然周邊ヲ游弋中

「アスリート」飛行場著陸四九

四、「サイバン」守備隊將兵ニ與フル部隊命令

1、米鬼ノ侵攻ハ依然熾烈ナルモ諸隊本日ノ敢闘努力ハ克ク眞面目ヲ發揮セリ

2、「サイバン」守備部隊ハ先ニ訓示セル所ニ隨ヒ明後七日米鬼ヲ索メテ攻勢ニ前進一人克ク十人ヲ斃シ以テ全員玉碎セントス

3、諸隊ハ明後七日〇三三〇以降隨時當面ノ敵ヲ索メテ攻撃ニ當リ「チャランカノア」ニ向ヒ進撃シ米鬼ヲ粉碎スベシ

又諸隊ハ明六日夜以降隨時特ニ選拔セル挺進部隊ヲ敵陣内深ク潛入セシメ敵ノ司令部、幕營地、火炮、戰車、飛行機等ヲ索メテ徹底的ニ之ヲ破碎スベシ

4、予ハ切ニ諸隊ノ奮戰敢闘ヲ期待シ

聖壽ノ萬歲ト皇國ノ彌榮ヲ祈念シツ諸士ト共ニ玉碎ス

昭和十九年七月五日

方面艦隊司令長官

0832

五、敵ニ與ヘタル損害ノ大要

(註) 戦闘ノ實相及戰果ヲ確認スルニ由テ現地ヨリノ報告ニ依リ確實ナルモノノミニシテ海軍關係ヲ含ミテラズ

飛行機 擊墜 一〇六機以上

砲 破 壞 四 門

迫 撃 砲 數 門

戰 車(擱坐、炎上) 二十數輛

戰艦一、驅逐艦一、輸送船一撃沈

驅逐艦二、輸送船五炎上

兵員ノ損害 一五、〇五三名 (七月十三日發表)

右ハ敵側ノ發表ニシテ其ノ損害ハ猶大ナルベク「サイパン」島守備隊ノ活躍眞ニ敬服ニ價スルモノアリ
參考 「タラワ」島ノ敵損四、七七二名

第三 觀察竝ニ敎訓

其ノ一 本作戰ノ特異性

0833

「サイパン」島作戰ノ特異性ニ就テハ有ユル方面ヨリ觀察セバ尙幾多ノ研究問題ヲ包含シアルベキモ其ノ主ナル點ヲ列舉セバ次ノ如シ

一、敵軍ニ關スル事項

1、敵ノ進攻就中上陸戰法ハ從來ト異ナリ太平洋艦隊ノ主力ヲ使用シ其ノ龐大ナル鐵量ヲ以テ一舉ニ最モ鞏固ナル核心的要點ノ攻略ヲ企圖セリ

2、作戰進度ハ飛躍的ニ増大シ基地航空ノ支援ヲ期待スルコトナク上陸作戰ヲ遂行ス

「マキン」、「ケゼリン」間約八〇〇軒ニ對シ「ケゼリン」、「サイパン」間ハ約二千軒ナリ

3、強大ナル機動部隊ヲ使用ス

機動部隊ノ兵力ヲ從來ノ二―三倍ニ增強シ特ニ戰艦ノ兵力ヲ強化ス

4、敵機動部隊中ニハ艦砲射撃ニヨル上陸部隊ノ支援ヲ主任務トスル有力ナル艦隊(戰艦ヲ主力トス)ヲ別個ノ系統トシテ有スルガ如ク此ノ艦隊(戰艦機動部隊)ハ艦砲ノ彈種、其ノ行動等ヨリ推シテ艦隊相互ノ決戰ハ豫期シアラザルガ如シ

5、敵機動部隊ノ保有機數ハ一千五百機以上ニシテ上陸準備(航空擊滅戰ヲ含ム)、上陸支援並ニ掩護、

上陸後ノ戰鬪協力ノ外艦艇攻撃及増援遮斷等ニ任ゼリ

増援遮斷ノ方法ハ本土又ハ南方諸地域ヨリ「サイパン」ニ通ズル主要航空路上ノ飛行場群ヲ航母群ニヨ

0834

リ制壓セリ

6、敵艦隊ノ出動ニ方リ附圖第四ノ如ク大鳥島、南鳥島、「トラツク」、「ポナペ」等ノ側方要點ノ制壓ヲ企圖シアリ

7、島嶼群中敵ノ上陸ヲ企圖スル島ハ其ノ中核ニシテ飛行場ノ獲得容易且上陸比較的容易ナル島ニ選定スルガ如シ

8、上陸前ノ偵察ハ二月二十三日敵機動部隊ノ攻撃ヲ受ケタル際相當綿密ニ行ハレタルモノト見ルベク其ノ後基地航空部隊ニヨリ數同行ハレアリ其ノ外潛水艦ニヨリ隱密偵察ヲ繼續セシコトハ想像ニ難カラズ

9、上陸準備砲爆撃ハ更ニ強化ス

從來ノ準備砲爆撃二日ヲ四日ニ倍加シ其ノ方式ハ第一、第二日ハ艦爆ニヨル爆撃、第三、第四日ハ艦砲射撃ヲ主體トシテ之ニ爆撃ヲ加フ

爆撃ハ先ヅ飛行場、港灣、揚陸施設ヲ目標トシ艦砲射撃ハ海軍砲臺、主要術工物、指揮中樞ヲ目標トセリ

特異ノ事項トシテ十五日上陸直前ニ於テモ直接上陸海岸ノ陣地ニ對シ大ナル砲爆撃ヲ實施スルコトナク上陸ニ移レリ

10、上陸ノ時期ハ滿潮時ニ選定セリ（「リーフ」ノ關係上）

夜間泊地ニ進入シ拂曉時ヨリ上陸開始ス

11、橋頭堡ニ關スル事項

イ、敵ハ全般的ニ我ガ準備セル正面ニ上陸ヲ企圖セルモ最初ノ橋頭堡ハ我ガ配備ノ間隙ニ設定セシガ如シ爾後速カニ之ヲ横方向ニ連接セリ

ロ、第一日ノ橋頭堡ノ面積ハ四乃至六平方料程度（正面四料、深サ一・一・五料）ト思考セラル（電文不明瞭ナルモ狀況ニ依リ猶擴張セル疑アリ）

ハ、橋頭堡ハ之ヲ設定セバ數日間（本戰鬪ニ於テハ四日間）守勢ニ立チ戦力ノ充實ヲ計リ爾後逐次之ガ擴張ヲ企圖ス（第一回ノ上陸部隊ハ二日間ノ彈藥糧食ヲ携行スルモノノ如シ）

12、敵ノ揚陸速度ハ比較的迅速ニシテ一師團ノ上陸ハ十時間以内ニ行ハル

○七四〇上陸開始、一五〇〇頃ニハ一師團以上、第一回ノ上陸ハ舟艇ノ側方機動ニ依リ揚陸正面ヲ欺騙セリ（此ノ點我ガ火力ヲ避ケテ側方機動セシヤモ知レズ）

13、敵ハ基地航空部隊ノ支援ニ代フルニ強力ナル艦砲射撃ヲ以テセリ其ノ彈量ハ二萬噸ニ及ブガ如シ
西歐戰場ノ十六吋以上ノ主砲二〇〇門ト對比シ「サイパン」ニ於テハ七十二門ニシテ密度ハ後者遙カニ大ナルベシ

14、敵ハ我トノ白兵戦ヲ極力回避シ砲爆撃ノミニヨリ殲滅ヲ企圖ス

我逆襲セバ輕易ニ退避シ逆襲部隊ニ對シ砲火ヲ集中ス

我夜襲セバ照明彈ニヨリ白晝化シ艦砲ヲ以テ阻止射撃ヲ行フ

艦砲ト地上部隊トノ連繫緊密ニシテ彼我至近距離ニ於テモ支援射撃ヲ行フ

(註) 現地軍ヨリノ電報ハ「彼我ノ距離數十米ニ於テ支援射撃ヲ行フ」トアルモ彈丸ノ危險界ノ關係上檢討ヲ要ス

二、我が軍竝ニ地形ニ關スル事項

1、「サイバン」守備部隊ハ一部編制改正直後ナリシト海沒部隊(非武裝)、通過軍隊ノ駐留等ノ爲混雜シ指揮掌握不便ナリシト在留非戦闘邦人ノ保護ヲ要セシコトハ注意ヲ要スル點ナリ

2、「サイバン」島ハ比較的小島嶼ニシテ島周ヨリノ敵艦砲射撃ニ對シ島内全部威力圈内ニ在リ且島ノ中央高キ爲艦砲射撃容易ナリシコト

其ノ二 彼我戦力ノ比較(概數)

1、諸情報及俘虜調査ノ結果ニ依ルニ「サイバン」島攻撃ニ任ジタル敵兵力ハ米陸兵一師團、海兵二師團ニシテ米太平洋第三及第五艦隊ノ全力之ニ協力セリ

上陸部隊ノ火力裝備ノ概數(米軍編制表ヨリ)

海軍	陸軍	區分	
		火砲別	火砲別
18	12	15H以上	
7	12	10H以上	
8	32	A 級	
	24	T A	
	9	R i A	
	36	B i A	
	36	L M	
19	約30	A A	
52	191	計	
243		總計	

2、之ニ對スル我が戰力(非武裝者ヲ除ク)

兵員

約四八、〇〇〇以上

TK 約一五〇、飛行機六〇〇以上(機動部隊全力ニテ約一、五〇〇)

艦砲	陸上砲	數量	
		火器別	火器別
214	36	15H以上	
340	42	10H以上	
	114	A 級	
	173	T A	
	140	A A	
	333	M	
554以上	838以上	計	
1,392以上		總計	

三四

0838

TK 約四〇

飛行機若干

兵 員

約一八、〇〇〇(第一線兵力)

右ノ外彈藥、糧食等後方關係ニ於ケル戦力差モ認メザルベカラズ

其ノ三 島嶼防禦上留意スベキ事項

敵戦法ニ鑑ミ今後ノ島嶼防禦ノ方針ハ左記要件ヲ一應考慮スルヲ要ス

1、制空制海權ヲ敵手ニ委シアル最惡ノ場合ヲ前提トス

2、友軍地上兵力ノ増援ヲ期待セズ最後迄獨力戦闘ス

3、上陸ノ時期ハ豫斷ヲ許サズ豫想シ得ル最近ノ時日ヲ基準トシテ築城、教育等ノ緩急順序ヲ適切ナラシムルヲ要ス

4、上陸準備砲爆撃ハ鐵量一乃至二萬砲以上ニシテ想像以上ナリ(人命ノ損害ヲ極力避ケントスル敵ノ鐵量ハ今後更ニ増大スベキヲ考慮シアルヲ要ス)

上陸兵力ハ當日一師團以上

第一回ノ上陸舟艇數ハ一〇〇隻以上

5、島嶼群中敵ノ上陸ヲ企圖スル島ハ飛行場設定容易又ハ既設飛行場ヲ有シ上陸比較的容易ナル島ナル

0839

ガ如シ

三六

6、上陸正面ハ上陸比較的容易揚陸迅速ニシテ上陸後飛行場獲得迅速ナル方面ニ選定スルガ如シ
「ビアク」島ニ於テハ斷崖附近ニ上陸ヲ企圖セルモ此ノ場合ハ對岸ニ小島ヲ有シテ重砲ノ支援容易且飛行場獲得容易ナルノ要件ヲ具備セリ

7、上陸開始時期ハ「リーフ」ヲ有スル島嶼ニ在リテハ満潮時ナルコト多シ

8、上陸後速カニ飛行場使用ヲ開始ス從ツテ配備ハ飛行場位置ヲ制扼スルコトヲ考慮スルヲ要ス
「オレアイ」飛行場ハ上陸直後、「アスリート」飛行場ハ一週間後使用ヲ開始セリ

其ノ四 重要ナル戰訓

1、建制ノ單一、強固ナル團結ヲ必要トス之ガ爲島嶼守備隊長ハ陸海空隸屬ノ如何ヲ問ハズ島内ニ在ル部隊ヲ諸般ニ互リ強力ニ統制シ指揮ヲ一元化スルヲ要ス

2、平素ノ教育訓練上特ニ留意スベキ事項左ノ如シ

イ、砲爆對策及對戰車戰鬪ノ適否ハ對米戰ノ運命ヲ決スルニ大項目ナリ之ニ對スル戰技教育、資材準備ハ周到深刻ニ行ハルベキモノトス

ロ、敵戰車ニ對シテハ砲撃特ニ肉攻ハ有利ナリ

0840

島嶼ノ守備ニ任ズル兵員ハ兵種ノ如何ヲ問ハズ全員肉攻教育ヲ施スヲ要ス

② 熾烈ナル砲爆撃特ニ艦砲射撃ニ對シ築城特ニ攻撃築城等ニヨリ戦力(兵力、資材)ヲ貯存シテ敵ニ近迫シ所要ノ時機ニ一舉ニ戦力ヲ發揚シテ敵ニ白兵戦ヲ強要スル要領ヲ訓練スルヲ要ス

③ 上陸前ノ敵ノ準備砲爆撃ニヨリ幹部ノ損傷、指揮組織ノ崩壞、火器ノ喪失等ヲ生ズルヲ以テ之ガ對策ヲ講ズルト共ニ豫メ斯クノ如キ場合ノ生起スルコトヲ考慮ニ入レテ敵ノ上陸ニ對處スル計畫、準備並ニ訓練ヲ爲シ置クヲ要ス

ホ、軍隊ノ訓練就中大、中隊長級指揮官ノ統御力ハ不斷ニ鍊磨向上スルヲ要ス
「サイパン」島最後ノ電報ニ於テ此ノ點特ニ強調セラレアリ

附記

六月二十六日電文

訓練精到ナラザル部隊ヲ以テスル夜襲ハ損害ノミ多ク而モ離散シ反復(一回ノ夜襲ニ於テ戦力零トナルヲ常トス

六月三十日電文

砲爆撃ノ熾烈サ言語ニ絶ス一部ノ觀察ニ過ギザルベキモ軍隊ノ訓練ハ大イニ向上ヲ要ス

集結セル兵力ヲ以テ特定地域ニ對シ楔入攻撃スルモ平素ヨリ軍隊ノ訓練之ニ伴ハザレバ實行シ得ズ

七月三日電文

0841

熾烈ナル砲撃及爆撃ニ對シ毅然トシテ其ノ守地ヲ護ラシムルコトハ精練ナル軍隊ニシテ初メテ期待シ得ベシ現時我ガ軍隊ノ現狀ハ遺憾ナラ離散掌握ヲ脱スルモノ極メテ多シ

相當兵力ノ軍隊ニテモ訓練周到ナラザルニ於テハ全ク行方不明トナリシ部隊サヘアリ軍隊ノ精練及幹部ノ掌握力等ハ實ニ豫想外ナリ

七月四日電文

軍ノ精否ハ一ニ指揮官ノ如何ニ依ル大隊長以上ノ訓練ニ留意ヲ望ム

3

戰前汗ノ一滴ハ開戦後血ノ一滴ニ相當スベキヲ深ク肝銘シ指揮官以下全智全能ヲ傾倒シ部下ニ過激ノ要求ヲ爲スコトヲ敢テ辭セズ一意作戰準備ニ邁進スルヲ要ス

4、我ガ據點陣地健在ナルニモ拘ラズ敵ハ大舉上陸シ來ル(電報)即チ實相ハ壓到的優勢ノ量ヲ以テ據點ヲ溢出シ之ヲ無價値タラシムルモノニシテ水際火器ノ全力ヲ以テ敵ニ與フル損害ヲ遙カニ超絶セル量ト速度トヲ以テ上陸シ來ルモノノ如シ我ノ陣外ニ出デテ逆襲セントスルヤ直チニ艦砲ヲ集中シテ之ヲ制壓ス「サイバン」ニ於ケル據點ノ兵力ハ一小隊又ハ一中隊基幹ナルモノノ如ク當日中ニ橋頭堡ヲ横方向ニ連接セラレタリ據點ノ兵力、規模、構成ニ關シテハ深甚ノ研究ヲ必要トシ此ノ際據點ハ側方背後ニ對シテモ射撃シ得ル如ク準備スルヲ要ス(島嶼守備部隊戰闘教令案第六十七說明參照)

「サイバン」ハ諸島嶼中ニ於テ兵力密度ハ相當大ナリシガ敵上陸正面ノ我ガ兵力(白兵)密度ハ十二—十八

0842

米ニツキ一名ナリ此ノ點島嶼防禦ノ方式ニ關シ大ナル示唆ヲ與フルモノト云フベシ

5、敵ノ有力ナル橋頭堡（一乃至二師團）ニ對シ小部隊（一乃至二大隊）ノ逐次不統制ノ夜襲ハ徒ラニ兵力ヲ吞マルル結果ニ陷ルベキヲ以テ必勝ヲ期スル兵力ヲ集中シ周到ナル準備ノモトニ行フヲ要ス

6、陣地

陸上戰ニ於ケル前進陣地、警戒陣地ノ戰鬪ニ比スベキ海上及「リーフ」線利用ノ戰鬪ノ效果ハ制空制海權ヲ敵手ニ委シアル限り之ニ大ナル期待ヲ懸クル能ハズ而モ直チニ水際及陸上ノ戰鬪ヲ惹起ス即チ水際ノ陣地ハ野戰陣地ニ於ケル主陣地前線トナリ直チニ陣内戰ヲ惹起スル色彩濃厚ナリ從ツテ陣地ハ之ニ即應スル如ク縱深陣地ヲ絶對ニ必要トス又水際ニ配備スル火器ハ擧ゲテ側防火器タラシムルコト必要ナリ後退配備ノ場合ハ右ニ準ズルモ特ニ前地（豫想スル敵ノ橋頭堡）ニ對スル配備竝ニ施設ハ陣地戰ノ形態ヲ必要トスベシ

複廓陣地ハ之ヲ準備シ置クラ要ス此ノ際敵ノ飛行場使用ヲ制扼シ得ル如ク考慮スルヲ必要トス（島嶼守備部隊戰鬪教令案第七十一參照）

7、敵ノ上陸豫想時期ヲ正鵠ニ判斷シ戰備進捗ノ度ヲ時期的ニ計畫ス特ニ築城ノ順序緩急ヲ適切ナラシムルヲ要ス

戰況逼迫セル時期ニ於テ直接戰鬪ニ必要ナル築城ノ完成ヲ見ザルニ兵力ノ大部ヲ以テ飛行場其ノ他ノ土

工作業ニ從事セシムル等ノコトナキヲ要ス

四〇

其ノ五 戰訓ニ鑑ミ之ガ對策

1、準備砲爆撃時被害減少ノ對策

イ、敵砲爆撃ヲ分散セシム之ガ爲偽陣地、偽裝、欺騙ヲ廣ク且積極的ニ行フト共ニ築城ハ廣範圍徹底的ニ之ヲ行フ(島嶼守備部隊戰闘教令案第十四參照)

ロ、對爆施設ハ洞窟式掩蔽部ヲ最良トシ狀況之ヲ許サザル場合ニ於テモ火砲、重火器位置爲シ得レバ小銃手位置ニハ輕易ナル掩蓋ヲ構築スルヲ要ス此ノ際對爆施設即對地上戰闘位置ナル如ク施設スルヲ要ス

2、橋頭堡ニ對スル攻撃必成ノ爲ノ對策

イ、攻撃兵力ノ迅速ナル集中

敵ノ上陸セザル他ノ方面及豫備(又ハ主力)兵力ヲ攻撃點ニ集中ス之ガ爲砲爆撃特ニ艦砲ニ依リ此ノ行動ヲ阻止セラレザル如ク交通壕ノ準備、地形ヲ利用スル夜間機動等ノ訓練、集中地附近及部隊展開地附近ノ掩護施設、築城ノ準備、燃彈ノ準備集積等ヲ必要トス

ロ、橋頭堡ニ對スル攻撃開始迄海岸據點ノ健在

0844

攻撃成功ノ爲據點健在ヲ有利トス之ガ爲據點ノ編成ハ獨立性ヲ附與シ其ノ兵力編組、築城ヲ考慮ス但シ海岸據點ハ上陸部隊ニ對シ最大ノ損害ヲ與フルコトヲモ考慮セザルベカラズ

ハ、爲シ得レバ機動性アル豫備隊(狀況ニヨリ主力)ヲ掌握シアルヲ要ス

ニ、攻撃築城等ニヨリ戦力ヲ温存シテ近迫シ敵前至近距離ニ於テ攻撃威力ヲ發揮シ敵ニ白兵戦ヲ強要ス敵ハ極力白兵戦ヲ回避シ砲爆撃ニ依リ我ニ損害ヲ與ヘントスルモノナルヲ以テ此ノ戦法ヲ封ジ輕易ナル攻撃築城ヲ以テ迅速ニ肉薄スルヲ要ス

ホ、陽攻、助攻ニヨリ敵艦砲射彈ヲ分散セシム

ヘ、煙ノ大規模使用

敵ハ夜間ト雖モ白晝化スルヲ以テ大規模ニ煙ヲ利用スル著意ヲ必要トス

ト、敵兵充滿セル時期ニ於ケル橋頭堡ノ粉碎

上陸戦闘ニ於ケル敵ノ第一ノ弱點ハ洋上ニ在ル時期ナルハ勿論ナルモ之ヲ彼我相對的ニ見テ敵ノ第二ノ弱點ハ狹隘ナル橋頭堡ニ敵兵充滿シ我が戦力ノ集中成レル時期ナリ此ノ時ニ於テ鐵槌的ニ火力ヲ集中シ或ハ地雷(對彈ノ爲地下深ク大威力爆藥等ヲ裝置シ視發地雷トス)燒夷其ノ他ノ手段ニヨリ此ガ覆滅ヲ企圖スルヲ要ス此ノ際噴進彈ハ最も有效ナルベシ

3、戦法上ノ對策

敵ハ事前ニ周到ナル偵察ヲ行ヒ我ガ從來ノ戰法ヲ知悉シ之ガ對策ヲ確立シテ攻撃ヲ行フモノナルヲ以テ今後更ニ千遍一律ノ硬直戰法ヲ採用スルトキハ敵ニ乘ゼラルル虞アリ故ニ常ニ主動積極的防禦方針ニ基キ創意工夫奇策縱橫ノ戰法ヲ採用シ絶エズ敵ノ意表ニ出デ守備隊ノ志氣昂揚ヲ計ルト共ニ初頭ニ於テ敵ニ一大痛撃ヲ與フルコト緊要ナリ

其ノ六 細部ノ戰訓

1、掩體特ニ水際ニ於ケルモノハ地上高ヲ低下シ(一米以下)偽裝ヲ完全ナラシメ特ニ地形ヲ利用シテ艦砲ニ對シ掩護ヲ計ルヲ要ス

2、艦砲竝ニ爆撃ニヨリ晝夜ヲ問ハズ交通杜絶スルヲ以テ交通壕ノ設備ハ重要ナリ

3、敵艦ト地上部隊トハ無線標旗ニヨリ連絡ヲ計リ其ノ他目標指示ハ曳光彈等ヲ、集中地域ノ指示ニハ發煙彈ヲ使用シアリ

4、敵艦砲ノ彈種ハ瞬發信管附榴彈時トシテ榴散彈ヲ使用シ弱裝藥ニテ彈道ハ彎曲ス

5、敵艦砲ノ爲樹木ハ折斷燒失シテ清野化セラレ偽裝ハ剝奪セラル

6、熾烈ナル砲爆撃下損害ヲ減少シテ行フ砲兵ノ陣地變換ニ關シテハ周到ナル演練ヲ必要トス

7、水際砲兵ノ射撃開始ハ舟艇二〇〇米以内ニ接近セル時機トシ艦砲射撃ノ損害ヲ避ケ且必中射撃ヲ行フ

0846

コト必要ナリ

8、觀測所及火砲掩體ハ時間ニ餘裕ナキ場合ハ銃撃ニ對抗シ得ル掩蓋ノミニテモ砲爆撃ニ對シ相當效果アリ

9、通信所位置ハ最モ堅固ナラシムルヲ要ス

10、無線ヲ使用スル時ハ砲彈ヲ被ルコト多キヲ以テ通信所ノ掩護ニ關シ特ニ留意スルヲ要ス

11、通信線ハ敵竊話ノ疑アルヲ以テ重要ナル事項ハ往復線トスルヲ可トスルモ熾烈ナル砲爆撃下ニ於テハ通信線ハ殆ド斷絶ス

12、重火器砲兵等ニシテ運搬器材ヲ缺クモノハ之ガ對策ヲ平素ヨリ確立スルヲ要ス

13、砲爆撃ノ爲水源潰滅スルヲ以テ之ガ對策ヲ確立スルヲ要ス

陣地配備等ハ水ニ制セラルルコト大ナリ

14、敵機動部隊ハ氣象ヲ巧ニ利用シ「サイパン」進攻ニ方リテハ低氣壓ニ乘リ其ノ圈内ヲ航進シテ企圖ヲ秘匿セリ

附記

艦砲射撃ニ關シテハ左記書類ヲ參考トスベシ

一、昭和十九年七月一日大本營陸軍部發行 敵軍戰法第十七號「敵ノ艦砲射撃ニ就テ」

0847

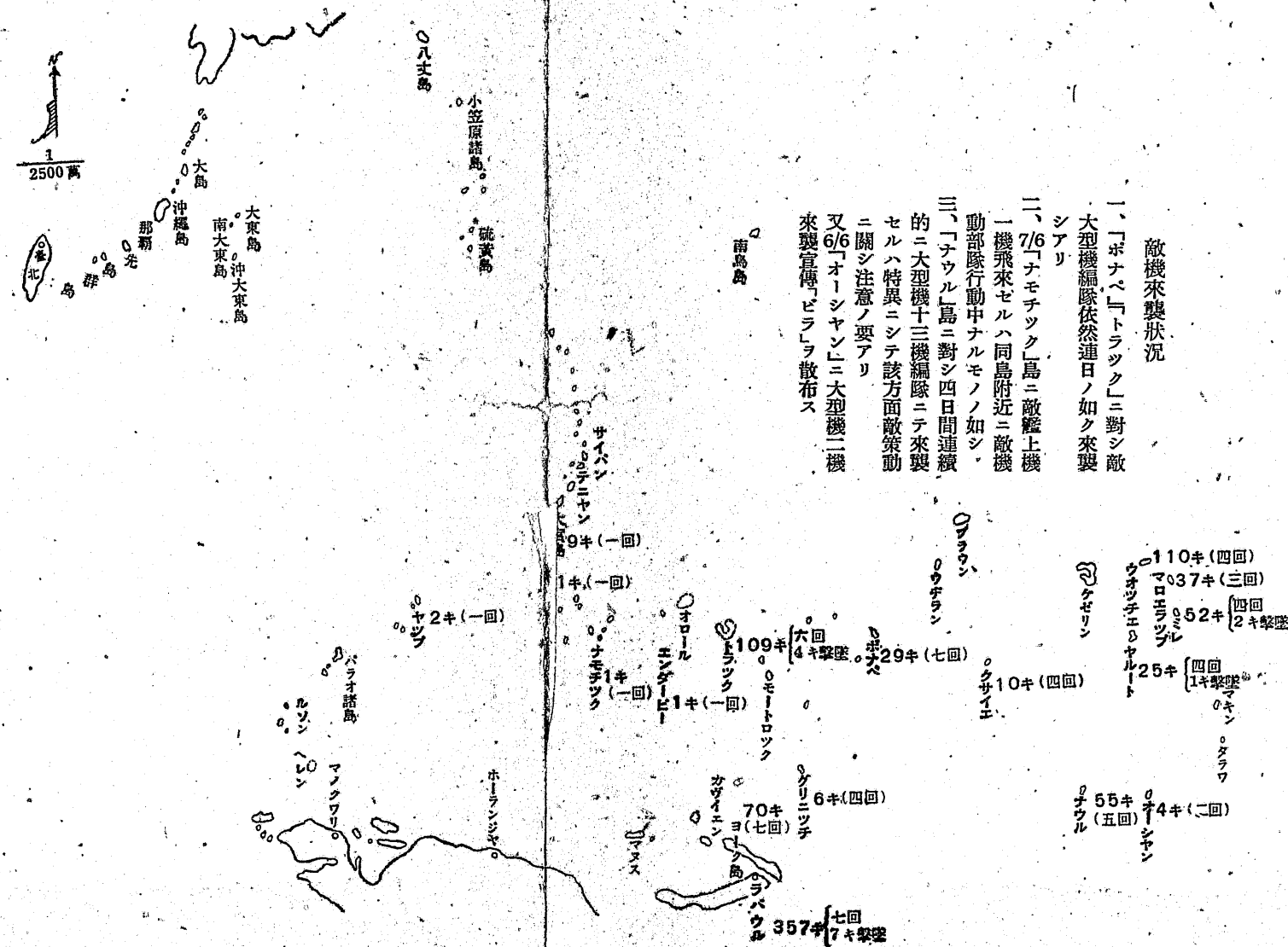
二、偕行社記事 特號第八三八號(七月號)別冊附錄「米英砲爆撃ノ實相」第五章「艦砲射撃」

四四

0848

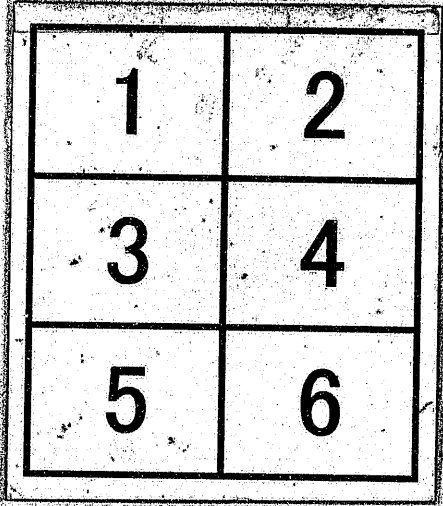
附圖第四

中部太平洋方面敵空襲狀況圖
(六月上月)



0849

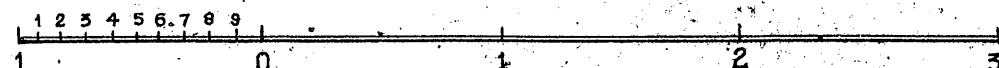
分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	サイパン島配備要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

0850
0851
0852
0853
0854
0855

サパイ島配備要圖

(四月十三日現在海軍關係三月十三日)



本配備ハ四月三十日現在ノ
モノニシテ其ノ後四十三師團
ノ派遣第一派遣隊ノ改編ニ
伴ヒ相當ノ移動アルモノト
思考ス
敵ノ上陸正面ニハ四十七旅團(第一派遣隊ヲ改編)
守備シアリシガ如シ



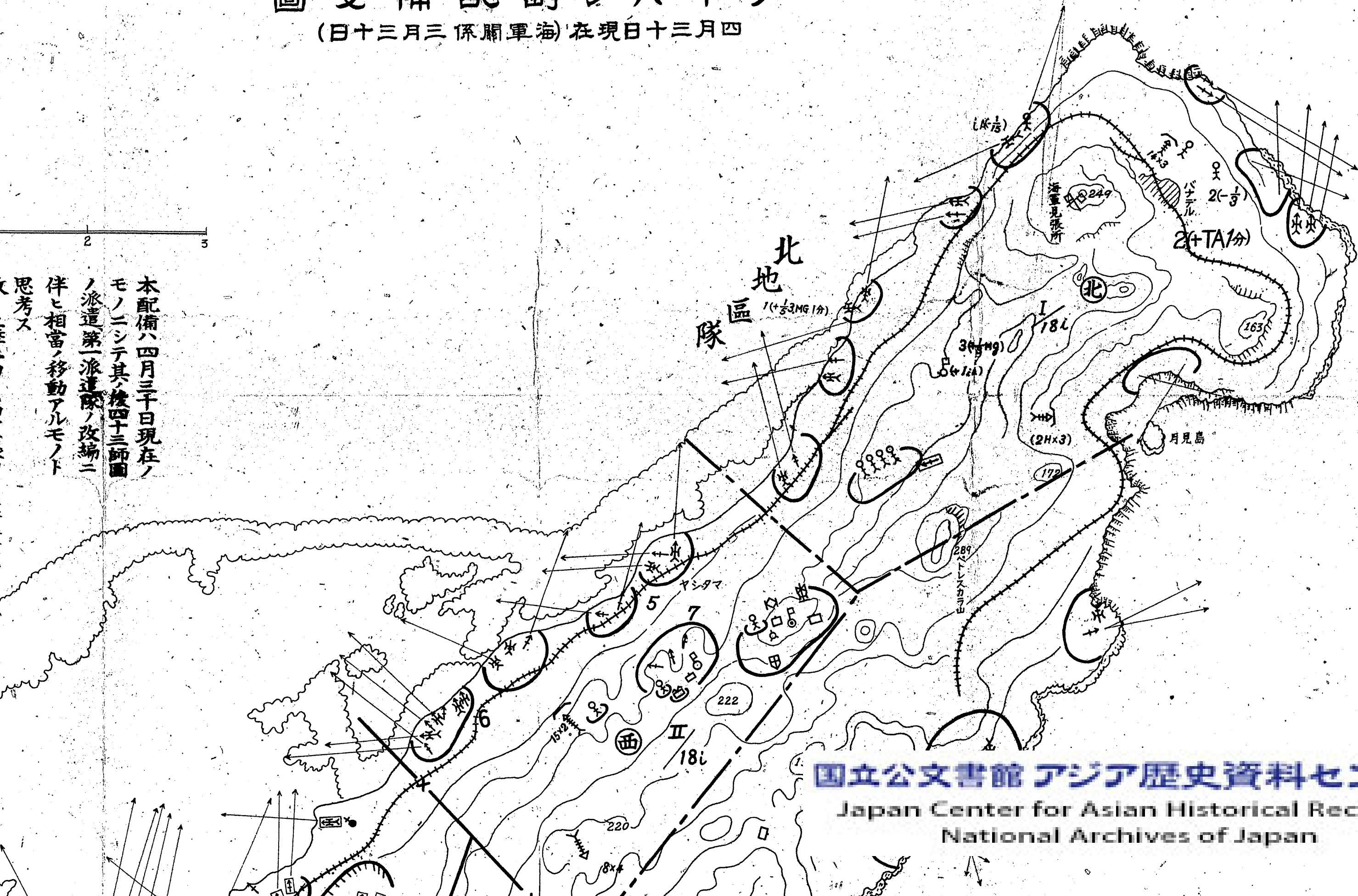
サパイ島配備要図

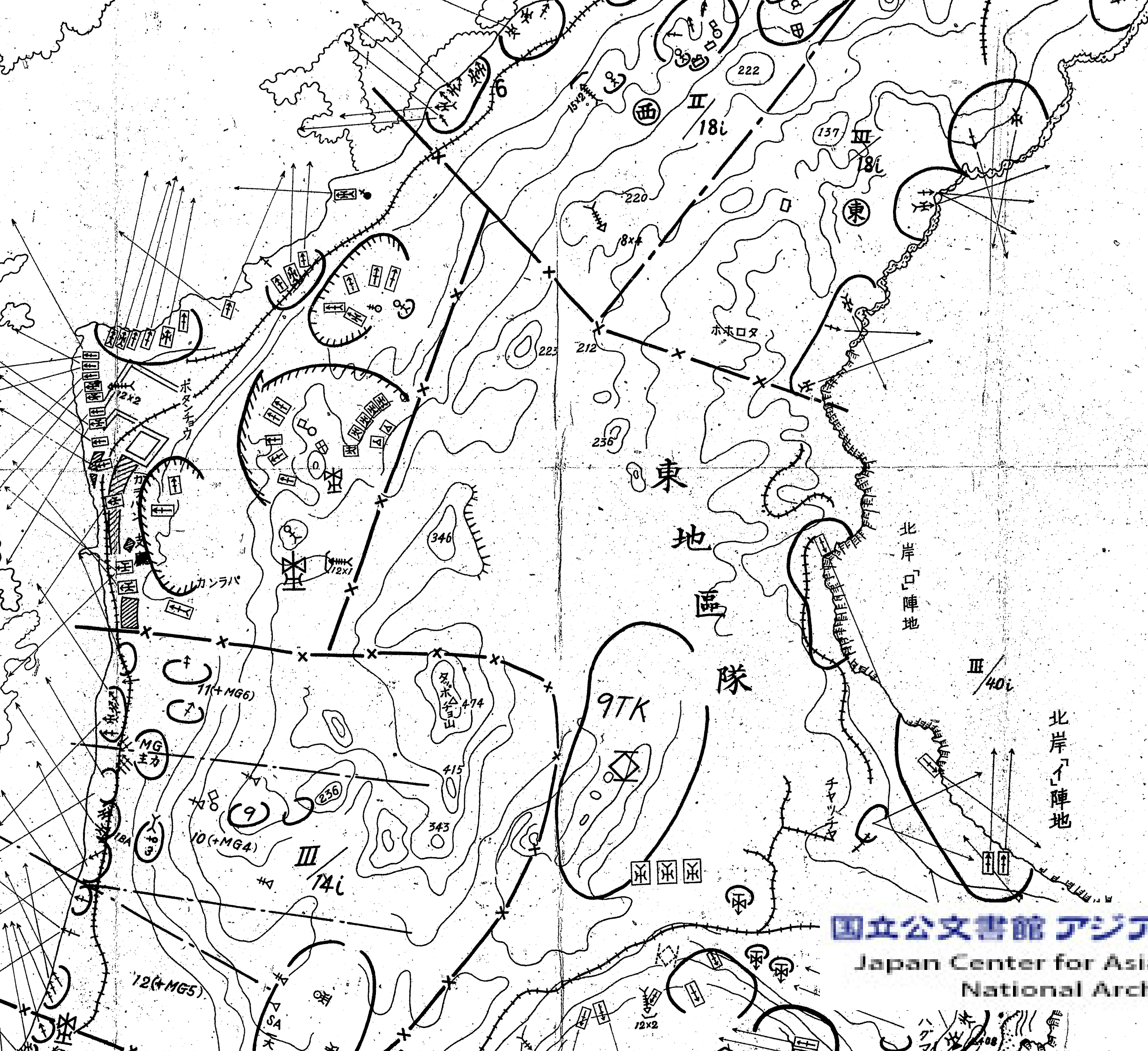
(四月三十日現在) 海軍関係三月十三日

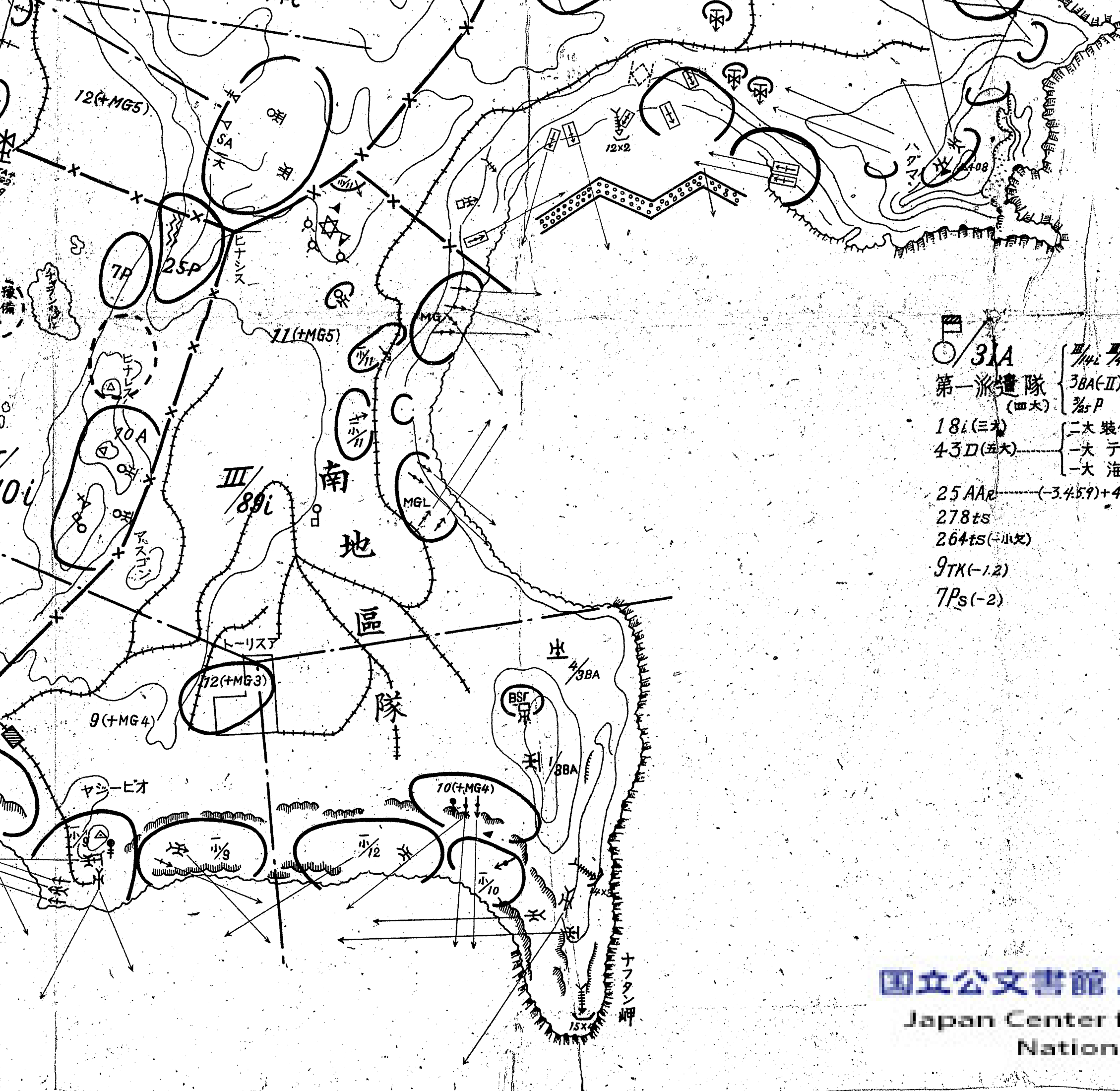
附圖第一

2 3

本配備ハ四月三十日現在ノ
モノニシテ其ノ後四十三師團
ノ派遣第一派遣隊ノ改編ニ
伴ヒ相當ノ移動アルモノト
思考ス







31A
 第一派遣隊
 (四大)
 18i(三犬)
 43D(五犬)
 25 AAR
 278ts
 264ts(-小欠)
 9TK(-1.2)
 7Ps(-2)

3BA(-II). 1/10A
 3/25P
 二大 裝備ナ(海没)
 一大 テニヤン
 一大 海 没

(-3.4.5.9)+43AAs. 44MAA.

海 軍

20短	4
15	14
14	3
12	4
8	4
8AA	3
12AA	16
2.5	80
1.3	16
2.5	4
1.3	16
Mg	25
SL	6